

上信電鉄観光自転車の導入と地域学修・情報処理教育への活用

Introduction of *Joshin Dentetsu Sightseeing Bicycle*, and Its Utilization for Regional Study and IT Education.

竹上 健[†]Takeshi TAKEGAMI[†][†]高崎商科大学[†]Takasaki University of Commerce[†]Email: ttakegami@uv.tuc.ac.jp宮川良伸[‡]Yoshinobu MIYAKAWA[‡][‡]上信電鉄株式会社[‡]Joshin Dentetsu[‡]URL: <http://www.joshin-dentetsu.co.jp/>

あらまし：文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択された高崎商科大学では、新たに「地域志向教育研究費制度」が設けられ、この制度を活用して、ローカル鉄道「上信電鉄」の「サイクルトレイン」と組合せたレンタル観光自転車の導入を行った。利用者増を主目的として、上信電鉄沿線の観光スポットを効率的に観光してもらおうと、その移動の足を提供しようとした企画であるが、今後、高崎商科大学生の地域学修への活用とともに、情報処理の課題テーマ提供としての活用を図っている。本稿では、レンタル観光自転車システムについて説明するとともに、今後の展開について議論する。

キーワード：上信電鉄、サイクルトレイン、観光自転車、地（知）の拠点整備事業、地域志向教育研究費

1. はじめに

高崎商科大学の「地（知）の拠点整備事業^[1]」では、上信電鉄沿線において「点から線」の活動展開を計画している。地域観光まちづくり支援のために自転車を活用しようとする本研究では、上信電鉄沿線の観光・地域活性支援の方策として、上信電鉄の「サイクルトレイン^[2]」と組合せたレンタル観光自転車システムを提案し、平成26年4月より貸し出しを開始した。

自転車は健康増進に役立ち、初期導入費用も比較的安価で、排気ガスなど出さない優良な交通手段である。この自転車を上信電鉄高崎駅に配備し、希望者には無料で貸し出し、手軽に足代わりとして利用できる環境を整備することは、上信電鉄の利用者増や地域観光まちづくりに貢献できると考えられる。また、高崎商科大学生と上信電鉄沿線地域在住者とのコミュニケーションのきっかけになる可能性もきわめて高く、地域学修教育の場への展開も期待できる。

2. 「地（知）の拠点整備事業」とは

「地（知）の拠点整備事業」は平成25年度から文部科学省が実施した支援事業で、自治体と連携して全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学等を支援し、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としている。この事業では、学内組織が連携し「地域のための大学」として全学的に地域再生・活性化に取り組み、教育カリキュラム・教育組織の改革につなげていくことが要求される。

3. 地域志向教育研究費

「地（知）の拠点整備事業」に採択されたことから、高崎商科大学には新たに「地域志向教育研究費制度」

が設けられた。この制度は、大学が地域を志向する大学として取組みを推進するため、各教員の地域志向を踏まえた教育・研究及び社会貢献活動を改善・進展させ、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に資することを目的としている。

4. 地域観光まちづくり支援の一提案

4.1 上信電鉄と自転車とのコラボ

高崎商科大学は、高崎から富岡を経由して下仁田に至る上信電鉄沿線の山名・根小屋地区に立地し、同電鉄に「高崎商科大学前」駅も設置されている。また、高崎市では平成25年4月より「通称：高チャリ^[3]」が開始され、富岡市でも上信電鉄上州富岡駅前で無料のレンタル自転車がシステム化されている。さらに、富岡市観光課では新たに電動アシスト自転車の貸出しを開始している。本研究では、これらの先行事例と足並みをそろえつつ、システムを参考にしながら、上信電鉄サイクルトレインを利用するレンタル観光自転車を導入した。

4.2 上信電鉄のサイクルトレイン

上信電鉄には自転車をそのまま持ち込めるサイクルトレインが運行されており、平日は午前9時台から午後2時台の上下計13本、土日・祝日は午前7時台から午後2時台の上下計19本の列車が利用可能となっている。持込み料金は無料で、1人1台の持込みが可能である。自転車は2両編成の後部側車両に乗せることになっており、列車がワンマンで運行されている関係で、利用できる駅は常に駅員のいる「上信高崎」「吉井」「上州福島」「上州富岡」「下仁田」の5駅に限定されている。なお、個人所有の自転車持込みの場合は事前に上信電鉄への連絡が必要となっている。



図1 サイクルトレインで移動中の状況



図2 正門とは反対側から富岡製糸場見学



図3 学生が作成中の自転車観光マップ

4.3 導入した「上信電鉄観光自転車」

新幹線などを経由して上信電鉄を利用する観光客を主な対象として、上信高崎駅構内に複数台の自転車を配備し、サイクルトレインを活用してもらう前提で、高崎駅での貸し出しと返却を行うシステムを導入した。観光自転車システムの概要は以下のとおりである。

- ①上信電鉄高崎駅でのみ貸し出しと返却を行う。
- ②利用者自身が貸出簿に氏名・電話番号などを記入。
駅員は身分証明書などで氏名を確認して貸し出す。
- ③利用者は、自転車を上信電鉄サイクルトレインで「吉井」「上州福島」「上州富岡」「下仁田」のいずれかの駅まで運んで周辺を自由に観光する。
- ④利用はサイクルトレイン運行時間帯となり、当日返却を基本とする。宿泊観光には申請により許可する。

4.4 観光自転車としての車種と条件

準備した観光自転車の条件は以下の通りである。

- ①観光利用の雰囲気があり、「変速機」「前かご」「泥よけ」「ライト」「鍵」がついていること。また、二人乗り防止のため後部に荷台のない車種を選定した。
- ②表示プレートは大きさにならないものにした。
- ③利用者の好みに対応できるよう、3車種準備した。
- ④整備や定期点検は自転車組合高崎支部に依頼した。
搭乗者自身の事故傷害補償と事故を起こした際の賠償責任補償に対応したTS保険^[4]に加入した。

5. 実践学習への展開

5.1 地域学修への活用

学生に地域について学修させるには、フィールドワークとして実際に地域に出向させることが一番の方法と考えられる。2年次必修科目である教養演習Ⅱの授業を土曜日に振り替え、学生8名とともに上信電鉄観光自転車を利用して、世界遺産登録目前の富岡製糸場をメインとした地域めぐりに出かけた。図1、図2はそのときの状況の一例である。コースとしては、上信高崎駅⇒上州富岡駅⇒龍光寺(工女の墓)⇒富岡製糸場⇒小幡(城下町, 楽山園)⇒笹森稲荷(古墳)⇒上州福島駅⇒上信高崎駅で、走行距離は約10kmであった。午前9時に集合し午後2時半に解散したことから、大学の授業3コマ分の活動をしたことになる。

5.2 情報処理の課題テーマの提供

教養演習Ⅱで受け持つ学生は情報系のコースに所属しており、PCの基本操作は理解していることから、今回自転車で周った地域について、写真や略図を織り込んだ「観光マップ」を作成する課題を出した。2名でチームを組み、「初めて観光に訪れた人々にとってわかりやすく十分満足して使ってもらえる観光案内となるように」とだけ指示し、各チームで自由に作成するものとした。図3は、学生が作成中の富岡市内の自転車による観光マップを示している。

他に、観光自転車を利用した方々に対してのアンケートの作成を指示した。アンケートはA4版1枚で作成するものとし、質問項目は学生が相談しながら考えることとした。今後、改善項目の把握に活用する予定である。また、自転車には、速度などが測れる器具を追加で取り付けているが、この器具の「取扱説明書」の作成も課題とする予定である。

6. まとめと今後

本稿では、上信電鉄のサイクルトレインと組み合わせたレンタル観光自転車の導入について説明するとともに、地域学修の場への展開や情報処理の課題テーマ提供としての活用について報告した。現在このシステムは、「上信高崎」「吉井」「上州福島」「上州富岡」「下仁田」の5つの駅しか利用できないという重大な問題を抱えており、今後、利用可能駅の増大を検討していく必要がある。

謝辞

本研究は、文科省「地(知)の拠点整備事業」における平成25年度地域志向教育研究費により行ったものである。

参考文献

- [1] 文部科学省, 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業), http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/.
- [2] 上信電鉄サイクルトレイン, <http://www.joshin-dentetsu.co.jp/ba-na/saikurutorein.htm>.
- [3] 無料自転車「高チャリ」を中心商店街で貸し出し, <http://cyclist.sanspo.com/67493>.
- [4] TSマーク付帯保険とは?, <http://www.tmt.or.jp/safety/index3.html>.